東京府庁舎と建築家・妻木頼黄（つまきよりなか）

左図：「妻木頼黄肖像画」『建築雑誌　第 30 輯』1916、右図：妻木がデザインした日本橋の麒麟像（2012 撮影）

妻木は、安政 6 年（1859）、旗本の長男として江戸赤坂に生まれました。10 代の妻木は、慶應義塾や東京外国語学校などで勉学にいそしみ、明治9年（1876）春、16歳の時に、1年間ほど、単身、アメリカへ渡りました。

日本へ帰国した妻木は、明治 11 年（1878）、工部大学校造家学科（現在の東京大学工学部建築学科）に入学、明治 15 年（1882）、卒業まであと1年というところで、米国・コーネル大学建築学科 3 年に留学・編入しました。明治 18 年（1885）に帰国後、妻木は東京府土木課御用掛に勤めました。この時、府は庁舎の設計を依頼します。しかし、妻木は、明治 19 年（1886）、内閣臨時建築局へ転任、同年 10 月ドイツ・シャルロッテンブルク工科大学へ留学し、明治 21 年（1888）に帰国後も、同局へ復職します。

そこで府は、改めて妻木に府の嘱託として庁舎設計を依頼、明治 24 年（1891）には東京府技師と兼務となり府庁舎建設工事に携わりました。

妻木にとって、東京府庁舎はデビュー作でした。